



Sapporo
education and
culture hall
news

ŕ a k u

61



芸術文化との接点を生み出すためのアプローチ

新しい「関心」を生み出し「関わり」へとつなげるために

「自分の知らない、こんな世界があるんだ」という体験から、「観てみたい」「もっと知りたい」という関心が生まれ、鑑賞・ワークショップなどによる体験・作品創造などの多様な関わりサイクルへとつながっていくような、魅力的な事業展開を行います。

1 外部施設の活用

休館中は教文の施設が使用できないことをチャンスと捉えて外で事業を行い、これまで教文に足を運んだことのない方々との接点を創出します。

詳しい情報は本誌3、4ページのイベントライナップ
または当館ホームページをご覧ください。



3 情報誌のリニューアル

新しいロゴデザインとなった情報誌では、主に「観てみたい」「もっと知りたい」という関心につながるような質の高い情報発信と、情報誌の枠に囚われない新しい企画の発信を積極的に行い、事業展開との相乗効果を生み出すことを目指します。

Raku

ACT
Art, Culture, Tradition



※ACTのデザインはイメージです。

本情報誌「楽」のタイトルデザインは、漢字の「楽」とアルファベットの「R」が融合したデザインに。ACTは、「アート(芸術)」「カルチャー(文化)」「トラディショナル(伝統芸能)」の3つのジャンルを紹介していきます。

2 団体連携事業

「能とクラシック」という異色コラボレーションを楽しめる、札幌コンサートホールkitaraとの連携事業を初開催します。kitaraと教文の強みをミックスさせるべくゼロから企画を一緒に作り上げ、双方のファンに「面白い」と思ってもらえるような内容を目指しますので、どうぞお楽しみに！



特集

「知らない」を「体験」へ

札幌市教育文化会館は、地域に根差した公立施設として札幌の芸術文化環境の活性化に寄与すべく、今年度「知らない」を「体験」へをビジョンとして掲げ、芸術文化に触れる機会がなかった層へも積極的に働きかける事業展開を行います。芸術文化への「関心」を生み出し、「関わり」へとつなげ、裾野を広げていく取り組みにご注目ください。

札幌市教育文化会館(以下、教文)は、市民の方々とともに築き上げてきた「地域密着型文化施設」としての強みを生かしながら「人と芸術と社会をつなぐ」をコンセプトとして事業展開を行い、開館から45年を迎えました。近年は地元の実演家に加えてさまざまな分野のアーティストやクリエイターと協働し、和 cultura プロジェクトとして能楽展示や空間展示など創造的なプロジェクトも実施。これまで教文に足を運んだことのない層からも多くの反響を得るなど手応えを感じると同時に、「芸術文化との接点が多かった人たちに体験してもらおうこと」の大切さも、改めて認識することとなりました。

私たちが普及振興に努める芸術文化の本質とは、ある特定の人のためのものではなく、誰もが触れられるものです。そして、鑑賞・ワークショップなどによる体験・作品創造など、芸術文化に対する多様な関わり方の一連のサイクルをトータルで体験できることは、当館の良さでもあります。そのサイクルを体験する人を増やし、より豊かに広げていくために、今年度からは「知らない」を「体験」へをビジョンとして掲げました。これまで芸術文化に触れる機会のなかった層へも積極的に働きかける事業展開を行い、芸術文化と関わるサイクルへ足を踏み出すきっかけとなる、「関心」を生み出すことを目指します。

皮切りとなるのは、8月に札幌市民交流プラザで開催する能楽展示です。2019年に同会場で開催し、当初の目標を大きく上回る1350名の動員を記録した能楽展示と同様「能楽に興味のなかった人でも面白いと思えるような構成」を基本に、SCARTSコートでは誰もが楽しめる格好良くスタイリッシュな展示、SCARTSスタジオでは鬼や怨霊が出てくる演目に焦点を当てた体験型イベントを開催します。新たなビジョンが具現化された、多くの人にとって能楽との接点となりうる展示にすべく、鋭意準備中です。新しい付加価値を持つ事業設計を通じて、札幌の芸術文化環境の活性化に寄与していければと考えています。

休館中も市内各施設で公演・イベントを開催

当館は現在改修工事を行っており、2023年1月1日から長期間の休館中ですが、休館中にもお楽しみいただけるよう、準備を進めています。また、札幌コンサートホールKitaraとの連携によるコラボレーションコンサートをはじめ、様々な公演・イベントも予定されていますので、お楽しみに！

公演・イベントに関するお問い合わせ

札幌市教育文化会館 事業課
011-271-5822
(平日9:00～17:00 土日祝休)

主なチケットの取り扱い

道新プレイガイド
札幌市中央区大通西3丁目道新本社1階
10:00～17:00 (日曜定休)
0570-00-3871 <https://doshin-playguide.jp>

市民交流プラザチケットセンター
札幌市中央区北1条西1丁目
札幌市民交流プラザ2階
10:00～19:00 (休館日除く)

SCARTS × 札幌市教育文化会館 × 札幌市図書・情報館

「白鏡～明滅の虚空～(1F)」
「黒戯～幽闇の隠者～(2F)」

2023. 8.3[木] — 7[月] <予定>

2019年に札幌市図書・情報館と札幌文化芸術交流センターSCARTSの連携のもとで開催され、好評を博した能楽展示の第二弾。今回は、SCARTSコート(1階)とスタジオ(2階)をそれぞれ異なるコンセプトで開催します。能楽を知り、体験するための新しい空間をお楽しみください。

会場 SCARTSコート、SCARTSスタジオ
(札幌市民交流プラザ 1・2階)

※2019年の様子



Kitara・教文連携プロジェクト 雅 Vol.1 — Miyabi —

CLASSIC × NOH
— 弦楽四重奏と能が織りなす新たな世界 —

2023. 11.18[土]

札幌コンサートホールKitaraと札幌市教育文化会館連携プロジェクト。西洋の代表的なクラシックと日本の伝統芸能である能楽と舞を組み合わせた新しい公演を開催します。滅多に見られない特別な組み合わせをお楽しみください。

会場 札幌コンサートホール Kitara
小ホール



共催事業

人形浄瑠璃2024
さっぽろ人形浄瑠璃 あしり座公演

2024. 1.27[土] 28[日]

北海道で唯一の人形浄瑠璃一座「あしり座」による定期公演が開催されます。伝統芸能の奥深さを感じられる貴重な機会ですので、ぜひ足を運んでみてください。

会場 札幌市こどもの劇場 やまびこ座
札幌市東区北27条東15丁目



©kenzo kosuge



高橋竜太コンテンポラリーダンス
ワークショップ

2023. 5.27[土] 28[日]

元東京バレエ団のソリストであり、振付家・ダンサーとして活躍する高橋竜太氏が講師を務めるダンスワークショップ。今年で3回目となる今回は、ダンスがはじめての方向けのクラスと、経験者向けのクラスを開講します。日常から生まれるダンスの面白さを体験してみませんか。

会場 札幌市民交流プラザ
クリエイティブスタジオ

松竹大歌舞伎

2023. 7.5[水] 2回公演

大人気の松竹大歌舞伎が、4年ぶりに帰ってきます。演目は、まず一本目に、『鬼一法眼三略巻』の全五段のうちの三段目『菊畑』。満開の菊畑を背景に、歌舞伎ならではの様々な役柄が登場する華やかな一幕です。そして二本目には、謡曲『土蜘蛛』を素材とした舞踊劇『土蜘蛛』。重厚でありながら変化に富んだ舞台を、ぜひご堪能ください。

会場 札幌市民交流プラザ
札幌文化芸術劇場 hitaru



写真提供・松竹



小・中学生のための能楽入門

2023. 7.29[土] — 30[日]

能楽師の小倉健太郎氏(宝生流シテ方)を講師にお招きして、謡と舞にチャレンジする子ども向けワークショップを2日間にわたって開催します。日本の伝統芸能「能楽」の魅力に触れるこの機会を、お気軽にご参加ください。

会場 札幌市民交流プラザ
研修室

1947年、小樽市生まれ。1958年、札幌に転居。1968年東京藝術大学彫刻科に入学。1972年同大大学院へ進学。在学中に第1回C.C.A.C.ワールドプリントコンペティション(サンフランシスコ近代美術館)にて最優秀賞を受賞するなど、彫刻を学ぶ一方で活動初期には版画制作の中心としていた。1978年頃、本格的に彫刻作品の制作へと移行。厚別公園競技場に制作した「連」で第4回本郷新賞を受賞。2000年以降はステンレス鋼による板材と鉄による線材で構成された作品を制作。2008年に札幌芸術の森美術館にて「國松明日香展―風、水面ふるわし、そよめく光を開催。

《秋霖》2006年



撮影：前澤良彰



撮影：露口啓二

《風の道》1993年

現代彫刻家

國松明日香



術



化



Art
Culture
Human

01

苦手意識があったから生まれた 金属の表現

— 國松さんが作品に金属を使うようになったきっかけはなんですか。

もともと量感を求める粘土での彫刻が苦手でした。どうすれば克服できるか悩んでいた時、ふと神社の鳥居が4本の柱だけで空間を変質させていることに気づきました。そこからモノとモノの間に興味が沸き、自分が表現するなら板状、線状の金属が適していると思ったのがきっかけです。

— 作品を制作する上で今一番大事にしているポイントはなんですか。

以前は完成イメージを作ってから制作していましたが、20年ほど前から完成イメージを決めず作っています。作る過程で色々と試行錯誤することで、自分という器をはみ出すことができるような気がします。

— 昨年の南区芸術祭2022では実行委員長を務められました。

人生のターニングポイントにはいつも南区がありました。そんな南区への恩返しのため取り組みましたが、得るものが多くてまた恩を感じてしまいました。今後プロジェクトを続けていくことで南区を拠点にするアーティストが増えたら、過疎や高齢化という問題を抱える南区が活性化するのではと考えてやっています。

— 今後やってみたいことは。

南区芸術祭で若いアーティスト達が発表した作品をみて、自然の捉え方が自分とはかなり違うことに気がきました。彼らから受けた自然への優しさは私の中にはないもので、今まで抱えてきた自然観を今一度見直す機会を与えてくれました。今後そのことについて考えてみたいと思います。



UNDER CONSTRUCTION REPORT

教文 - 桜のスポット

改修中でもお花見を

教文正面に位置し、早咲きで知られ、春の風物詩として親しまれてきた教文の桜。特に人気なのが会館正面にあるソメイヨシノ。現在改修工事のため長期休館中ですが、一部エリアを開放し、今年も見事に満開となり、多くの方々に楽しんでいただきました。



第1回

教文の改修工事の様子を のぞいてみよう!

現在休館中の教文からレポートをお送りします。

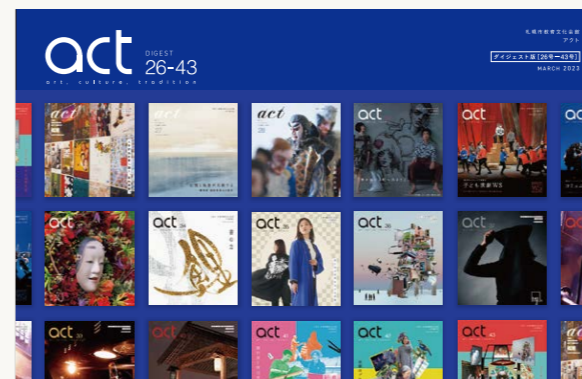


いつ観ても
圧巻の
ソメイヨシノ



SAPPORO EDUCATION AND CULTURE HALL

KYOBUN TOPICS



教文フリーペーパー「act」
総集編 vol.3

TAKE FREE

「文化芸術」の魅力に触れよう! わかりやすくまとめた情報が満載

「act (アクト)」は、「文化芸術」に関する情報をわかりやすくまとめ、多くの方にその魅力を知ってもらうためのフリーペーパーです。これまでに総集編を2冊発行してきましたが、今回はvol.3として、2017年発行の26号から最新の43号までを再編集し、1冊にまとめました。文化芸術をつくる人、作品、考え方、思いなどを通して、今まで知らなかった「文化芸術」を身近に感じてもらえる一冊です。ぜひ、手にとってご覧いただき、文化芸術の魅力に触れてみてください。

配布場所

札幌市内各施設で無料配布いたします。
配布先リストは右記の二次元バーコードまたは教文HPでご確認できます。

スマホはこちらから

